

教育研究業績書

2020年10月27日

所属：心理・社会福祉学科

資格：助教

氏名：田中 美帆

研究分野	研究内容のキーワード
生涯発達心理学, 生命心理学	生と死に対する態度, 妊娠期, 育児期, 自殺予防
学位	最終学歴
博士 (学術), 修士 (学術), 学士 (心理学)	神戸大学大学院人間発達環境学研究科人間発達専攻 博士課程後期課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要

1 教育方法の実践例		
1. 学習管理ツールを使用した効果的な授業の実施	2019年4月～現在	「心理学実験実習Ⅱ」および「心理学英語文献講読」では、Googleの学習管理ツールであるGoogle Classroomを用いて授業を行っている。講義資料の配布や課題・小レポートの提出において使用した。学生のレポートや課題をタイムラグなく確認することが可能になり、指導や添削の迅速化につながった。
2. 双方向型授業の実施	2017年9月～現在	「心理調査法実習」では、オリジナルの尺度を作成し、調査を行い、得られたデータについて分析を行った。尺度作成段階から、学生と議論をしながら講義を行った。レポート執筆に向けて、結果の分析や読み取り、考察についても議論を重ねる。「心理学実験実習Ⅱ」では、前期では「心理尺度の作成」後期では「鏡映描写実験」を行い、レポート作成にあたり、学生と議論および添削を繰り返し実施した。
3. 確認テストを用いた学生の理解度および到達度の把握	2014年4月～2017年9月	「人間発達学」は看護師養成課程の基礎科目、「児童・発達心理学」は小学校教員養成の必修授業であった。そのため、毎回5分程度（5～10問）の小テストを実施し、正解数を報告させ、学生の理解度や到達度を把握することを試みている。また、小テストは講義開始後すぐに行い、答え合わせの際は前回の復習を取り入れることでスムーズな講義への導入に役立った。
4. コミュニケーションペーパー活用による双方向的講義の実施	2014年4月～2017年9月	「人間発達学」および「児童・発達心理学」では、全15回全ての講義でコミュニケーションペーパーを授業の課題として課している。特に受講生が150人弱の「児童・発達心理学」では、双方向の対話が可能になったとの評価を得ている。また、学生によるリフレクションや質問のうち、質の高いものは次の講義で紹介し、フィードバックを実施した。
5. ディスカッションとプレゼンテーションによる効果的な学習	2014年4月～現在	「人間発達学」および「心理調査法実習」では、少人数グループに受講生を分け、共通のテーマについてグループディスカッションを行っている。ディスカッションの結果をまとめ、グループごとにプレゼンテーションを実施した。各自が意見を出し合い、それを集約し、また他者からの意見を受けることを通じてコミュニケーション能力および論理的な思考が向上した。
2 作成した教科書、教材		
1. 英語文献講読Ⅱ	2018年9月～現在	英語文献講読Ⅱでは、社会心理学領域の実験や主な理論について英語で学ぶ講義である。講義内でただ英語を輪読するのではなく、実験の内容や理論について解説するテキストを作成し活用した。
2. 心理学実験Ⅰ・Ⅱ	2018年4月～現在	心理学実験実習を進める教材として、テキストを作成し活用した。前期では尺度およびアンケートの作成や分析を助ける資料、後期では鏡映描写実験の解説や分析・考察を助ける資料を雑誌や書籍より抜粋し、活用した。
3. 心理見学実習の手引き	2018年11月	学部における公認心理師養成に先駆けて行われる平成30年度特別学期「心理見学実習」で使用される「心理見学実習の手引き」を作成および文章校正を行った。また、関連書類（事前学習記録、実習記録、実習レポート）についても、フォーマットの検討を行った。
4. 心理調査法	2017年10月～現在	心理調査法実習を進める教材として、テキストを作成し活用した。アンケートの作成や分析を助ける資料を雑誌や書籍より抜粋し、活用した。
5. 発達心理学	2014年4月～現在	人間発達学および発達心理学の理解を深める教材として、テキストを作成し活用した。教科書には載っていない実験場面VTRや写真、データを科学論文雑誌、学術論文より抜粋し、活用した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. 大阪医科大学「医療倫理」ゲストスピーカー	2019年7月25日	大阪医科大学医学部の「医療倫理」にゲストスピーカーとして招聘された。「出産にまつわる倫理」というタイ

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
		トルで周産期・乳幼児期における死生と倫理について、周産期の喪失とそのケアを中心に講義を行った。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

1. 心理領域教務担当	2019年4月～現在	CUやKTの原案作成や教員間・領域間の調整，非常勤講師への対応，カリキュラムマップおよびツリーの原案作成など心理領域における教務関連の業務を担当している。
2. 人間学研究 総務理事	2018年4月～現在	心理・社会福祉学科の教職員・学生による組織である人間学研究会の総務理事を担当している。具体的には、機関誌の編集および業者との交渉、予算案および事業案の作成を行っている。
3. 鳴松会 校内幹事	2018年4月～現在	鳴松会の心理・社会福祉学科の校内幹事に任命された。
4. 公認心理師養成制度設計タスクチーム	2018年4月～2019年3月	公認心理師養成プロジェクトにおける制度設計タスクチームの一員として学外学内実習のシステム構築や学外施設との実習に至る手続きの整備について中心的に参画した。また、学外施設との実習に関わる文書について作成，校正や送付書類のチェック等事務関係の業務に統括的な役割として携わった。
5. 公認心理師養成運営タスクフォース	2018年4月～2019年3月	公認心理師養成プロジェクトにおける運営タスクフォースの一員として，組織図や緊急・クレーム対応手順の作成に携わった。
6. 心理領域 実習演習ワーキンググループ	2018年11月～2019年6月	公認心理師養成における学部の実習演習講義に関してどのような実習演習計画で行うのか，学部の公認心理養成として目指すべき人材について議論を行っている。
7. 神戸大学大学院人間発達環境学研究所 心理発達論共同研究室 教務補佐員	2017年4月～2018年3月	教務補佐としてコース運営に関わる事務および機材管理を担当している。具体的には，卒業論文および修士論文の発表会や各種ガイダンスの運営，パソコン，実験器具，プリンター，演習室などの保守管理，旅費申請やコース教育経費の予算執行，機関誌の編集および業者との交渉を行った。
8. 枝吉児童館 あひるくらぶ 読み聞かせボランティア	2010年4月～2016年3月	神戸市内の児童館の読み聞かせサークルにおいて，就学前および小学生に対して読み聞かせや人形劇などのボランティアを行った。人形劇やパネルシアターなどの製作をし，活動の一環として，神戸市内の幼稚園や小学校においても読み聞かせを実施した。
9. NPO法人 明石おやおこ劇場 まめっこくらぶ 支援スタッフ	2010年4月～2016年3月	就園前の幼児を持つ母親が集まる育児サークルにおいて，支援スタッフとして発達の相談や育児についての相談を受け，専門的立場から専門機関の紹介や発達の悩みについての助言を行った。
10. 神戸市医療センター中央病院院内 ボランティア	2009年4月～2010年3月	医療センターにおける長期入院患者に対して，職員と協働し患者を支援するチームの一員として，院内案内・車椅子介助・問診の代筆などの患者サポート，正月・雑祭り等の時期に応じた季節飾りといった活動を行った。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. たのしく学べる乳幼児のこころと発達	共	2021年3月(刊行予定)	福村出版	【担当部分】2章 胎生期の発達 乳幼児心理学のテキストである本書のうち、「胎生期」をテーマにした2章を担当した。本章では，胎芽から胎児にわたる発達とともに発達に影響を与える要因，出生前診断や早産などについても取り上げた。また，胎芽・胎児とともに発達する妊娠各期における母親の心理についても紹介した。さらに，誕生と生まれて間もない新生児の発達，そして父親になることについても解説した。
2. 多様な人生のかたちと迫る発達心理学	共	2020年3月	ナカニシヤ出版	【担当部分】第3部 9章 死ぬってどういうこと？ 「多様な人生のかたち」をキーコンセプトの一つとする本書のうち，「うしなう」をテーマにした第3部第9章を担当した。本章では，心理学における生や死についての捉え方を概観し，「死についての考え方は変化するのか？」という観点から幼児，若者，大人，高齢者の各発達段階における死生観の特徴を解説した。そのうえで，死生観に多様性や個人差を生

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				む影響要因として多様な経験、性別、関係性の影響について紹介した。 【掲載ページ】 pp83-90
2 学位論文				
1. 妊娠・出産経験が成人期の生と死に対する態度に及ぼす影響	単	2017年3月	博士論文（神戸大学）	体内に二重の生命を有し、子どもの生命を負託される妊娠・出産経験が成人期の生と死に対する態度に及ぼす影響を検討した6つの実証研究を行った。成人期の生と死に対する態度に影響を与える要因、前妊娠期から育児期の生と死に対する態度の発達的変容を明らかにした。成人期の生と死に対する態度における関係性の視点について議論し、前妊娠期から育児期にわたる生と死に対する態度の変容モデルを提案した。
3 学術論文				
1. End-of-Life Activities among Community-Dwelling Older Adults in Japan (査読付)	共	2019年6月 早期公開	OMEGA - Journal of Death and Dying	【担当部分】論文執筆，データ分析（全項担当） 【共著者】Miho Tanaka, Masami Takahashi, Daisuke Kawashima This study explored end-of-life (EOL) activities among community-dwelling Japanese older adults and the relationships between EOL activities and related variables. 123 older adults who attended EOL seminars were surveyed regarding EOL activities, attitudes toward death, and mental health status. Cluster analysis of EOL activities revealed three clusters: "Planning," "Preferance", and "Preparation". The number of EOL related events attended was positively correlated with Preparation, while fear of death was negatively associated with Preference. Older adults with bereavement experience had higher Planning and Preparation scores than those without such experience.
2. 妊娠・出産と育児の経験が成人女性の生と死に対する態度に与える影響（査読付）	共	2017年9月	神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要, 11, 47-54.	【担当部分】論文執筆，データ収集・分析（全項担当） 【共著者】田中 美帆・小花和 Wright 尚子 本研究では、妊娠・出産と育児の経験を通じて女性が認識する生と死に対する態度の変化と出産後の生と死に対する態度に他者に対する共感性や妊娠期の状況がどのように影響しているのかを明らかにすることを目的とし、出産を経験した女性を対象に質問紙調査を行った。結果から、出産後に生と死に対する態度が変化することが示され、出産後の生と死に対する態度には、他者に対する共感性および出産経験が影響することが明らかになった。
3. 生と死に対する態度の潜在因子モデルに関する比較検討（査読付）	単	2017年3月	神戸大学発達・臨床心理学研究, 16, 23-27.	成人期の生と死に対する態度を取り上げ、適切な潜在因子を検討することを目的とした。生と死に対する態度を観測変数とし、単一の潜在変数からパスを引く1因子モデルと2つの潜在変数により規定されるという2次因子モデルの適合度指標を比較した。その結果、1因子モデルよりも2因子モデルの方がAICの数値はよいものの、その他の指標の差がわずかなものであるため、両者ともに必ずしも十分とはいえないまでも許容できるモデルであることが示された。
4. 妊娠期女性における心理学研究の現状と課題（査読付）	単	2016年9月	神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要, 10, 1-6.	妊娠期女性に焦点をあて、妊娠期に象徴的な身体変化や状況と関連させながら妊娠各期の心理面の様相についての先行研究を概観した。今後の展望として、妊娠期の心理面の変化は多岐にわたることが指摘されているが、実際には子どもの発達や育児により関連する領域以外に焦点が当てられていないことを課題として指摘し、今後は母親としての自分に加えて、個人としての自分を考慮した検討が必要であると指摘した。
5. 成人期の生と死に対する態度に影響を及ぼす個人的背景要因の検討（査読付）	単	2016年3月	神戸大学発達・臨床心理学研究, 15, 30-34.	子どもを持つ成人期の生と死に対する態度に影響を及ぼす個人的背景要因について探索的に検討した。調査分析結果より、子どもを持つ成人期の生と死に対する態度に影響を及ぼす要因には性差があり、とりわけ女性においては死別経験や入院経験等の個人的経験よりも子どもに関する要因が影響を与えていることが示された。このことから、子どもを持つ成人期の生と死に対する態度において、生に関する個人的背景要因が重要であることを明らかにした。
6. 成人期の生と死に対する態度尺度の構成（査読付）	共	2016年11月	カウンセリング研究, 49, 160-169.	【担当部分】論文執筆，データ収集・分析（全項担当） 【共著者】田中 美帆・齊藤 誠一 成人期における生と死に対する態度尺度を作成し、成人期の死生観に影響を与える要因について探索的に検討した。その結果、5つの下位尺度からなり、概ね満足できる信頼性と妥当性を備えていることが

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
7. 成人期の生と死に対する態度の検討——成人期前期に体験されるライフイベントに着目して——（査読付）	単	2014年3月	神戸大学発達・臨床心理学研究, 13, 27-31.	確認された。また、作成された尺度を用いて死別経験が成人期と中年期の死生観に与える影響を検討した結果、死別経験がある人においては、中年期より成人期の方が、女性において死別経験のない人よりある人の方が、死への不安・恐怖が高いことが示された。
8. 生と死に対する態度研究の概観と展望	共	2013年9月	神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要, 7, 181-186.	結婚と子どもを持つことに着目し、成人期前期の生と死に対する態度について検討した。調査分析結果から、未婚者に比べて既婚者は自分の死による周囲への影響を配慮する傾向が高い一方で、死を苦難からの解放とみなす傾向が低いということが明らかになった。また、子どもがいる人は子どもがいない人に比べて周囲への影響を配慮する傾向が高い一方で、死は人生にとって意味があると考える傾向および死を苦難からの解放とみなす傾向が低いということが明らかになった。
9. 成人期女性の生と死に対する態度についての基礎的検討——妊娠・出産経験の観点から——（査読付）	単	2013年3月	神戸大学発達・臨床心理学研究, 12, 27-32.	【担当部分】論文執筆、資料収集（全項担当） 【共著者】田中 美帆・齊藤 誠一 死に対する態度とは何か、発達段階における死に対する態度、誰の死を扱うのか、という3つの観点から「死」を多角的に扱った先行研究について概観した。その結果、先行研究の問題点として、死生観の概念と先行研究が必ずしも一致していないこと、死に馴染みが薄いとされてきた成人期の死に対する態度についての検討が不十分であること、死が扱われてきた文脈に偏りがあることを指摘した。また、今後の展望についても議論した。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
1. シンポジウム話題提供「出産前後の生と死に対する態度——他者との関係性が与える影響——」	共	2017年3月	日本発達心理学会第28回大会（広島国際会議場、JMSアステールプラザ、島市文化交流会館）	公募シンポジウム「死生に向き合う際、他者との関係は生の糧となるか、それとも重荷となるか——死生心理学の展開（2）——」 【講演者】川島 大輔・近藤 恵・田中 美帆・渡邊 照美・やまだ ようこ・川野 健治 【担当部分】話題提供 話題提供者として、妊娠、出産に伴う生と死に対する態度の変化を他者との関係性の視点から話題提供を行った。具体的には、生まれてくる子どもとの新しい関係性を構築していく経験が、生と死に対する態度にどのような影響を及ぼすのかについて報告した。また、従来暗黙裡に想定されてきた「死の恐怖は低いほうが望ましい」という点についても関係性の観点を踏まえて議論した。 【演題番号】SS2-2
2. 学会発表				
1. ポスター発表「家庭における乳幼児の人形遊びの実態調査（1）——家庭にある人形の種類と遊ぶ頻度に関する検討——」	共	2020年3月	日本発達心理学会第31回大会（大阪国際会議場）	【共同発表者】大塚 穂波・田中 美帆 【担当部分】計画、データ収集、文章校正 本研究では家庭において所持されている人形の種類や人形の扱い方について、実態を把握するための調査を行った。その結果、家庭で最も多く所有され、第一子が遊んでいるものは、キャラクターのぬいぐるみ、次いで動物のぬいぐるみであった。母親の人形の扱い方に関して、「死」は0,1歳よりも5歳で有意に得点が高くなるが、どの年齢においても他の扱い方より有意に得点が低かった。これは、アニミズム的理解の発達や、普段の生活や遊びの中で「死」を取り上げることの必然性の低さ、それに対する母親の態度との関連が考えられる。 【演題番号】PS3-25
2. ポスター発表「子どもとの関係構築経験と生と死に対する態度についての探索的検討」	単	2019年9月	日本心理学会第83回大会（立命館大学）	本研究では、母親がどのような経験が親子関係構築に影響を与えたと認識しているのか、またそれらが生と死に対する態度とどのように関連するのかについて探索的に検討した。果から、母親の認識する子どもとの関係構築経験が日常的な世話に関するもの、初めての接触や経験に関するもの、身体的な接触に関するもの、の大きく3つのままとりによって把握できること、これらの関係構築経験が生と死に対する態度のうち死への不安・恐怖、人生の目標、生への執着と関連していることが明らかになった。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
3. ポスター発表「The influence of mother-infant relationship-building experiences on Japanese mothers' attitudes towards life and death」	単	2019年8月	19th European Conference on Developmental Psychology (Divani Caravel Hotel, Greece)	【演題番号】2C-056 This study aims to examine relationship-building experience that influence attitudes toward life and death among Japanese mothers. Participants were 103 mothers who had given birth to their first child. These findings demonstrate that awareness of pregnancy, at which point mothers first experience relationship-building with their infant, influences Japanese mothers' attitudes towards life and death. This suggests that mothers think that the first trimester is an important period for relationship-building. 【演題番号】PP188
4. ポスター発表「老年期におけるゆだねたさ尺度の開発」	共	2019年3月	日本発達心理学会第30回大会（早稲田大学）	【共同発表者】田中 美帆・川島 大輔・辻本 耐 【担当部分】発表、データ収集・分析、抄録執筆 本研究ではゆだねたさを「意思決定の場面においてその困難さや諦めなどから他者に決定を負託させようとする態度」として、老年期におけるゆだねたさ尺度を開発することができ、おおむね満足できる信頼性と妥当性を備えていることが確認された。また、ゆだねたさが高い高齢者は精神的健康が低く、自分が生きていないほうが周囲が幸せになれると考えていることが明らかになった。 【演題番号】PS6-15
5. ポスター発表「高齢者のエンド・オブ・ライフケアへのアクションリサーチ(1)——地域高齢者のエンド・オブ・ライフへの態度およびその関連要因——」	共	2019年3月	日本発達心理学会第30回大会（早稲田大学）	【共同発表者】辻本 耐・川島 大輔・田中 美帆 【担当部分】データ収集・分析、文章校正 本研究では、エンド・オブ・ライフに向けた準備に対する高齢者の態度を明らかにし、どういった要因がその態度と関連するのかを探索的に検討することを目的とした。結果から、ADとACPではその態度構造が異なること、死に対する態度を変容させることで、ADやACPを促進させる可能性を示唆された。 【演題番号】PS4-7
6. ポスター発表「母親の生命観教育に対する態度の影響因についての探索的検討」	共	2018年9月	日本心理学会第82回大会（仙台国際センター）	【共同発表者】田中 美帆・大塚 穂波 【担当部分】発表、データ分析、抄録執筆 本研究では、子どもの死の概念についての養育者の理解や現在の家庭での「死」に関する会話の頻度が養育者の生命観教育に対する態度に及ぼす影響を探索的に検討した。結果から、現在家庭で「死」に関する会話をしている人ほど、意欲的態度が高く、否定的態度が低いこと、子どもが不可逆性を理解する年齢を正しく認識している人ほど意欲的態度が弱いことが明らかになった。 【演題番号】3PM-085
7. 小講演「妊娠・出産経験が成人期の生と死に対する態度に及ぼす影響」	単	2017年9月	日本心理学会第81回大会（久留米シティプラザ）	【講演者】田中 美帆 【司会】小花和 Wright 尚子 妊娠・出産経験が、成人期の生と死に対する態度に及ぼす影響という標題で執筆した博士論文を元に、体内に二重の生命を有し、子どもの生命を負託される妊娠・出産経験が成人期の生と死に対する態度に及ぼす影響を検討した6つの研究を報告した。成人期の生と死に対する態度とその影響要因や妊娠・出産経験が生と死に対する態度に及ぼす影響を明らかにした研究結果を通して、前妊娠期から育児期の生と死に対する態度の発達の変容モデルを提案した。 【演題番号】L-032
8. 口頭発表「What factors influence attitudes towards life and death among Japanese primiparous women?」	単	2017年9月	18th European Conference on Developmental Psychology (Utrecht University, Netherlands)	This study aims to examine pregnancy details and personal experiences that influence pregnant Japanese women's attitudes towards life and death. Participants were 126 women pregnant with their first-born children. The findings suggest that the experience of pregnant women feeling their fetal life influences Japanese primiparous' attitudes towards life and death. Further study is necessary to examine attitudes towards life and death among Japanese men whose partners are pregnant. 【演題番号】pop303-13
9. ポスター発表「高齢者の終活と関連要因についての探索的検討」	共	2017年3月	日本発達心理学会28回大会（広島国際会議場，JMSアステールプラザ，広島市文化交流会館）	【共同発表者】川島 大輔・田中 美帆・Masami Takahashi 【担当部分】データ分析、文章校正 本研究では高齢者が実際にどのようなエンド・オブ・ライフに関する態度を有しているのか、またそれらとどのような要因が関連するののかについて探索的に検討した。結果から、高齢者のエンド・オブ・ライフへの態度が大きく「墓と財産」、「終末医療と葬儀」、「具体的準備」という3つのまとまりによって把握できること、そしてその態度が終活セミナー

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
10. ポスター発表「妊娠各期における生と死に対する態度の横断的検討」	共	2017年3月	日本発達心理学会28回大会（広島国際会議場，JMSアステールプラザ，広島市文化交流会館）	<p>の受講や肉親との死別経験によって高まる可能性が示唆された。 【演題番号】P6-47</p> <p>【共同発表者】田中 美帆・齊藤 誠一 【担当部分】発表，データ収集・分析，抄録執筆 本研究では，妊娠各期における生と死に対する態度を横断的に検討した。その結果，妊娠初期に比べて妊娠後期は，人生に目標や目的を持つ傾向にあり，妊娠中期および後期は自らの死による周囲への影響を配慮し，生に執着しようとする見方が高まること明らかになった。妊娠中期には胎児の存在を実感し始めるとともに，その命に対する究極的な責任を意識する時期であるといえ，この時期に生に執着しようとする見方も高まることが示唆された。 【演題番号】P6-27</p>
11. ポスター発表「The influence of the youngest child's age on attitudes towards life and death among Japanese adults.」	共	2016年7月	The 31st International Congress of Psychology (Yokohama, Japan)	<p>【共同発表者】Tanaka, M. & Saito, S. 【担当部分】発表，データ収集・分析，抄録執筆 This study aims to examine how the youngest child in the family influences Japanese adults' attitudes towards life and death through a cross-sectional study. Participants were 287 adults with preschool children. A questionnaire was provided. The findings suggest that various factors influence parents' attitudes towards life and death depending on their youngest child's age. 【演題番号】PS28A-09-197</p>
12. ポスター発表「末子の年齢が中年期の世代性に与える影響」	共	2016年5月	日本発達心理学会第27回大会（北海道大学）	<p>【共同発表者】田中 美帆・齊藤 誠一 【担当部分】発表，データ収集・分析，抄録執筆 末子の年齢が中年期にある男女の世代性に与える影響について検討した。その結果，末子の年齢に関係なく，中年期においては一定の世代性関心を有することが明らかになった。育児期の親の心理的側面を検討する際，重要な要因のひとつとして指摘されている末子の年齢の違いは，世代性関心には影響を及ぼさないことが示された。この結果について，子どもの誕生により急速に世代性が獲得される可能性や世代性の高まりは一定の高さで維持される可能性から議論した。 【演題番号】PE73</p>
13. ポスター発表「The developmental trajectory of the pregnancy period on attitudes towards life and death among Japanese adults.」	共	2015年9月	17th European Conference on Developmental Psychology (Minho University, Portugal)	<p>【共同発表者】Tanaka, M. & Saito, S. 【担当部分】発表，データ収集・分析，抄録執筆 This study is aimed to examine the developmental trajectory from primipara to child-birth on Japanese adults' attitude towards life and death through a cross-sectional study. Participants were 43 adults (26 females) who have their first-born. The findings suggest that people's attitude towards life and death change in their pregnancy period, however the effects differ depending on gender among Japanese. 【掲載ページ】694-695</p>
14. ポスター発表「パートナーの妊娠・出産・育児経験が成人期男性の死生観に与える影響」	単	2015年3月	日本発達心理学会第26回大会（東京大学）	<p>パートナーの妊娠・出産・育児経験が成人期男性の生命観に与える影響を横断的に検討した。結果から，パートナーの妊娠・出産および育児経験に伴う成人期男性の生命観は，下位因子によって異なる様相を示すことが明らかになった。すなわち，「死への不安・恐怖」や「生への執着」は大学生，妊娠期，育児期にわたり変化するが，「命に対する態度」，「人生の目的・希望」や「死後の生活への信念」は変化しないことが明らかになった。 【掲載ページ】147</p>
15. ポスター発表「世代性関心の発達の变化についての検討——青年期・成人期前期・中年期の横断調査から——」	共	2014年9月	日本教育心理学会第56回総会（神戸国際会議場）	<p>【共同発表者】田中 美帆・齊藤 誠一 【担当部分】発表，データ収集・分析，抄録執筆 青年期である大学生，成人期前期にある妊娠期男女，中年期にある男女を対象に，世代性のうち世代性関心の発達の变化について検討した。これらの結果から，青年期女性，成人期前期女性に比べ中年期女性，中年期においては女性の方がより次世代の子どもや後輩との直接的なかかわりをしていること，青年期に比べ中年期により記憶に残る貢献に努めていることが明らかになった。したがって，性差はあるものの概ね中年期に向けて世代性が形成されていくことが示唆された。 【掲載ページ】835</p>
16. 口頭発表「妊娠・出産・育児経験が成人期女性の生と死に対する価値観および態度に与える影響」	共	2014年8月	第43回日本女性心身医学会学術集会（京都府立医科大学）	<p>【共同発表者】田中 美帆・齊藤 誠一 【担当部分】発表，データ収集・分析，抄録執筆 妊娠・出産・育児経験が成人期女性の生と死に対する価値観および態度に与えた影響を横断的に検討し</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
17. ポスター発表「The Influence of Personal Experiences on Attitudes Towards Life and Death Among Japanese Adults.」	共	2014年7月	The 23rd Biennial Meeting of the International Society for the Study of Behavioral Development (East China Normal University, China)	<p>た。この結果、出産・育児を経験することにより命を大切にすることになること、妊娠・出産・育児を経験することにより死に対する不安や恐怖が低下すること、妊娠中に自らの死による周囲への影響を配慮する傾向が上昇することが示された。これらのことから、「死への不安・恐怖」と「生への執着」は異なる変容プロセスを辿ることが示唆された。</p> <p>【掲載ページ】94</p> <p>【共同発表者】Tanaka, M., Obanawa, W. N., Saito, S., & Joh, H</p> <p>【担当部分】発表，データ収集・分析，抄録執筆</p> <p>This study aimed to examine personal experiences that influence Japanese adults' attitudes towards life and death. Participants were 312 adults (163 females) in their twenties to forties. The findings suggest that various factors have different effects on people's attitudes towards life and death depending on their age and gender among Japanese.</p> <p>【掲載ページ】61</p>
18. ポスター発表「過去の経験が青年期の時間的展望と親性準備性に与える影響」	単	2013年9月	日本心理学会第77回大会（札幌コンベンションセンター，札幌市産業振興センター）	<p>大学生男女の時間的展望と親性準備性の関連と過去のどのような経験がこれらに影響を与えるのかについて検討した。男性では、現在の充実感が高まるほど育児への積極性が低下するが、女性では、現在の充実感や目標指向性、希望が高まるほど、乳幼児への好意感情が高まり、現在の充実感が高まるほど育児への積極性も高まることが明らかになった。また、子どもとのふれ合い経験は親性準備性と時間的展望にも影響を与えていることが明らかになった。</p> <p>【掲載ページ】948</p>
19. 口頭発表「成人期の生と死に対する態度の検討——成人期前期に経験されるライフイベントに着目して——」	共	2013年11月	関西心理学会第125回大会（和歌山大学）	<p>【共同発表者】田中 美帆・齊藤 誠一</p> <p>【担当部分】発表，データ収集・分析，抄録執筆</p> <p>成人期に経験される結婚や子どもを持つことといったライフイベントと命についての観念の関連について検討した。結婚や子どもを持つことにより、命をより大切に感じるようになり、自らの死による周囲の人への配慮をするようになる一方で、死を現世からの解放であるとする考え方を失うことが明らかになった。これらの結果から、家族を持つことが生と死に対する態度に影響を与えることが示唆された。</p> <p>【掲載ページ】50</p>
20. ポスター発表「出産経験が女性の共感性に与える影響」	共	2012年9月	日本心理学会第76回大会（専修大学）	<p>【共同発表者】田中 美帆・小花和 Wright 尚子</p> <p>【担当部分】発表，データ収集・分析，抄録執筆</p> <p>出産を経験した成人期女性を対象に、妊娠・出産経験が生と死に対する態度に与えた影響を検討する。妊娠・出産を経験した女性の生と死に対する態度には、その出産経験が初産か経産か、あるいは妊娠中に切迫早産・切迫流産などの命に関わる出来事を経験したかに関わらず、「死に対する恐怖」、「生を全うさせる意志」、「人生に対して死が持つ意味」は高まる一方、「死の軽視」は低下することが示された。</p> <p>【掲載ページ】1046</p>
21. ポスター発表「出産経験が女性の生と死に対する態度に与える影響」	共	2012年11月	日本教育心理学会第54回総会（琉球大学）	<p>【共同発表者】田中 美帆・小花和 Wright 尚子</p> <p>【担当部分】発表，データ収集・分析，抄録執筆</p> <p>成人前期の女性を対象に、出産経験が女性の共感性に与える影響を検討した。その結果、「視点取得」において、出産後に高まることが示された。この傾向はとくに初産婦において顕著であった。他者指向的な共感性の中で感情的側面である共感的配慮については、妊娠・出産の経験による影響は認められなかったことから、子どもの情動への対処を繰り返すことで、子どもに対してだけでなく、他者の情動に対しても認知的に共感するようになることが示された。</p> <p>【掲載ページ】315</p>
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 自殺ハイリスク者等支援研修会への参加が受講者の自殺対策関連スキルの向上に及ぼす影響	共	2018年3月	自殺対策に関する調査研究事業委託事業（名古屋市中）報告書，45-50	<p>【担当部分】論文執筆，データ分析（全項担当）</p> <p>【共著者】田中 美帆・川島 大輔・辻本 耐・勝又 陽太郎・森山 花鈴</p> <p>本研究では、名古屋市中で実施された自殺ハイリスク者等支援研修会によって受講者の自殺対策関連スキルが向上するかについて検討することを目的とした</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
2. 養育者は身近な死から子どもに生命をどのように教えるのか——家庭での生命観教育に影響を与える要因の検討——	単	2017年5月	発達科学研究教育センター紀要 発達研究, No. 31, 95-104.	その結果、精神医療に関する資格を持っているか否かに関わらず、研修によって相談者の否定的感情や表現をまず肯定しようとする応答のスキルが向上する傾向にあること、自殺予防に対する自信が上昇し、自殺予防に対する否定的態度が低下することが明らかになった。 平成29年度自殺対策に関する調査研究事業委託事業(名古屋市の)助成を受けて行った。 養育者が家庭での生命観教育に対してどのような態度を持っているのか、この態度に家庭での生命観教育の現状や養育者自身の生や死についての考え方がどのような影響を与えるのか、について探索的に検討した。その結果、家庭での生命観教育の重要性や必要性を感じている養育者が多かったが、その実施についての困難さを抱えている養育者の存在が明らかになった。また、生命観教育に対する否定的態度には、養育者自身の死に対する不安や恐怖の高さが重要な影響因であることを報告した。平成27年度発達科学研究教育奨励賞研究助成に基づく研究の報告である。
6. 研究費の取得状況				
1. 科学研究費補助金 若手研究 新規 (代表)	単	2018年4月～現在	日本学術振興会	「妊産婦の自殺予防に向けた死への不安・恐怖に関する総合的発達モデルの構築」として、妊産褥期の発達的特徴である子との関係性構築に着目し、死への不安・恐怖の発達モデルを構築し、妊産婦の自殺関連行動との関連を明らかにする。 【課題番号】18K13034
2. 2018年度武庫川女子大学論文投稿助成金 (代表)	単	2018年11月	武庫川女子大学	武庫川女子大学の教育職員のさらなる学内研究の高度化・活性化を推進するため、論文投稿に対して助成を行う武庫川女子大学論文投稿助成金に採択された。本助成は、Journal of Infant and Reproductive Psychologyに投稿中の「Effects of pregnancy, birthing, and child-rearing on attitudes towards life and death among Japanese」に対して支給されたものである。
3. 平成27年度発達科学研究教育奨励賞 研究助成 (代表)	単	2015年9月～2017年3月	公益財団法人発達科学研究教育センター	幼少期の子どもの可能性を引き出し、心身の調和のとれた発達をはかることをテーマとした特色のある有為な研究の助成及び褒賞を行う発達科学研究教育奨励賞を受賞した。「養育者は身近な死から子どもに生命をどのように教えるのか——家庭での生命観教育に影響を与える要因の検討——」のテーマにて学術研究助成を獲得した。
4. 2014年度日本心理学会 国際会議等参加旅費補助金 (代表)	単	2015年7月	公益財団法人日本心理学会	国際的な研究教育推進のため、国際会議で責任発表者として発表を行う者の参加旅費に対して補助を行う国際会議等参加旅費補助金を獲得した。本補助金はThe 23rd Biennial Meeting of the International Society for the Study of Behavioural Developmentにおける「The influence of personal experiences on attitudes towards life and death among Japanese adults」に対して支給されたものである。
学会及び社会における活動等				
年月日	事項			
1. 2015年9月～現在	日本カウンセリング学会会員			
2. 2014年4月～現在	日本女性心身医学会			
3. 2013年9月～現在	関西心理学会会員			
4. 2013年11月～現在	日本発達心理学会会員			
5. 2012年4月～現在	日本心理学会会員			
6. 2012年4月～現在	日本教育心理学会会員			